

4月の政治・経済イベント

重要 01 米欧、金融システム不安の行方に注目

3月に相次いだ米銀の破綻や欧州大手銀行の経営不安に端を発した市場の混乱は、各国当局による預金支援や流動性供給など迅速な対応により、いったん落ち着きました。一方、今回の金融システム不安を受け、米銀の貸出姿勢の厳格化、それによる企業の資金繰り悪化、米景気の下振れリスクが懸念されます。FRB（米連邦準備制度理事会）はインフレと金融不安を同時対処せざるを得ない難局に直面する中、5月1日までに銀行の規制見直し策を公表する予定で、その動向が注目されます。

重要 02 日銀新体制発足へ、当面は金融緩和継続

4月に植田氏が日銀総裁に就任し、日銀新体制が発足します。植田氏は金融緩和を継続し、「物価と賃金の好循環」の実現を目指すとしており、当面は緩和継続の見通しです。一方、異次元緩和策の副作用も指摘されており、その1つであるイールドカーブ・コントロール（YCC）は昨年12月に市場機能の回復に向けた見直しが行なわれました。今後、そうした緩和策の副作用を見極め、YCCの再修正や国債・ETF（上場投資信託）買入れの見直しなど、日銀による出口戦略に関心が集まりそうです。

重要 03 コロナ禍からの回復 VS 金融不安による懸念、経済見通しはどうか？

4月にIMFの世界経済見通しが発表されます。ゼロコロナ政策の解除で内需回復や成長重視の政策支援により、中国の景気回復が期待されるといったポジティブ要素がある一方、今回の米欧の金融システム不安で先行きの不確実性が懸念されるといったネガティブ要素もみられます。こうした強弱両材料を踏まえ、IMFがどのような見解を示し、先を見通すかに注目が集まりそうです。

4月の主な政治・経済イベント

	国・地域	予定
3日(月)	日本 	3月調査日銀短観（全国企業短期経済観測調査）
3日(月)	米国 	ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数（3月）
7日(金)	米国 	雇用統計（3月）
12日(水)	米国 	消費者物価指数（3月）
18日(火)	中国 	1-3月期GDP、鉱工業生産指数、小売売上高、固定資産投資（3月）
27日(木)	米国 	1-3月期GDP（速報値）
28日(金)	ユーロ圏 	1-3月期GDP（速報値）
28日(金)	日本 	金融政策発表、経済・物価情勢の展望（展望レポート）公表
28日(金)	米国 	個人所得、個人消費支出、個人消費支出デフレーター（3月）
4月中	世界	IMF（国際通貨基金）世界経済見通し発表

上記は、すべて現地時間で作成しており、作成時点で利用可能な最新の情報を用いておりますが、発表日は変更される可能性があります。
 (出所) Bloombergデータ等より野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。